



みみはらファミリークリニックがいただいたお手紙

熱のある方も、当院としてできる内容で受け入れを行っております。

「そんな私たちの頑張りを評価していただけた」と、とても嬉しく、

## ためらわず！ コロナ感染を予防しながら 必要な医療・介護を受けましょう！

### すべての職員の奮闘で 新型コロナに日々対応

耳原総合病院 事務次長 川畑 望

同仁会では、2月18日より新型コロナウイルス対策本部を設置し、対応に当たってきました。この新興感染症への対応は、大規模な自然災害の対応に匹敵するものとなりました。直接診療にあたった職員はもちろん、友の会をはじめ、多くの方の奮闘がありました。

まず問題となったことは、マスクや個人防護具と呼ばれるエプソンの不足でした。日常的に使用するため供給が追いつかず、本来は使い捨てのものを洗って使い続ける、「ゴミ袋で代用品を手作りする」という通常考えられない対応を取りました。その

ような時、友の会会員のみなさんによるエプソンづくりが行われ、1万5000

枚のエプソン、900枚にのぼるマスクを毎日医療・介護の現場に届けていただきました（6月3日現在。あらためて感謝申し上げます。

院内感染を防ぐための対応も行いました。全来院者の症状確認を玄関で行い、4月からは入院面会の制限に踏み切りました（面会制限は6月より一部緩和）。職員は出勤時に発熱・呼吸器症状がないかチェックしました。また休憩時間の会話を禁止とし、職員食堂では向かい合わない座席配置に改めるなど、徹底した対策を取りました。

### 地域の皆さんのあたたかいエネルギーが私たちのエネルギーの基です！！

みみはらファミリークリニック 師長

南 きよみ

先日、地域の子ども食堂から、当院へお手紙と千羽鶴や花束など、感謝の品を届けていただきました。ありがとうございました。

当院は医療機能上、感染（新型コロナウイルス）患者さんの診断や治療を行うことは出来ませんが、発熱の患者さんや保健所や近くの医療機関から紹介された発熱のある方も、

患者さんに安心して来院していただけるようにするには、どうすればよいか職員全員で協議し、有症状の患者さんと定期的な患者さんとは、時間を分けて対応させていただきました。

また、法人の感染担当の方とも連携して、マニュアルの策定や感染対策を実施してきました。一部報道

に伴って、医療機関に受診を断られた患者さんが増えてきました。同仁会では保健所や地域の医療機関と連携をとりながら、通常通りの診療を継続しました。耳原総合病院では原則断らない救急を中心に据え、新型コロナウイルスに関わらず、救急車搬送を受け入れました。4月、5月は、特に他の行政区からの救急搬送が増加していました。

（患者ごとの器具交換、グローブ交換など）を行い、診療していただきます。今回、新型コロナウイルス対策として、さらに水準を引き上げ、縮小することなく、診療を継続しています。

### 感染予防策を患者さんとともに

歯科診療所 事務長

三宅 麻記

耳原歯科診療所では従来から、「安心・安全の医療」をスローガンに掲げて、積極的な感染予防対策

新たな対策として、診療所に入る外来診療に来られた患者さん、付き添いの方など、すべてのみなさんに検温、コロナに関する問診票の記載をお願いしています。受付にはアクリル板を設置しました。新型コロナウイルスの感染経路は、「飛沫感染、接触感染が基本」と言われており、歯科においては、「エアロゾル感染」が起らないよう、標準予防策

に備える必要があります。地域医療

の崩壊を防ぐためにも、感染症指定医療機関だけでなく、外来を担う診療所、疑い入院を受け入れる病院それぞれが役割を分担することが大事です。しかし長く続く診療報酬抑制政策の下では、医療機関の内部努力だけで乗り切ることができません。国の責任による全ての医療機関、歯科、介護事業所への緊急財政支援策が求められています。

また、診療所内を密にしないよう、診療室や待合の換気も常に行っています。在宅での治療も感染対策を万全にして、継続して行っています。必要な歯科治療は、ためらわずに受けてください。患者さんには安心して受診していただくため、いろいろとご協力いただいています。これからもどうぞよろしく申し上げます。



感染対策で設置したアクリル板

